

國學院大學學術情報リポジトリ

与謝野晶子『みだれ髪』論：
明治期の恋愛観がもたらした抑圧とその表現

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-23 キーワード (Ja): 神, 罪, 恋愛, 貞操, 相世界 キーワード (En): 作成者: 齋藤, 彩夏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001672

論 文 要 旨

学籍番号	223206	氏名	齋藤彩夏
論文題目： 与謝野晶子『みだれ髪』論—明治期の恋愛観がもたらした抑圧とその表現—			
<p>先行研究から『みだれ髪』は相聞歌であるという論から恋愛と言えるものがない色欲を歌っているだけであるとする論まで展開されている。たしかに、『みだれ髪』には「恋」という語は使われるが、「愛」という言葉が使われることは一度もない。そして、封建的立場からの脱却であるとする論もあれば、封建的な「家」に縛られた結果生まれた集であるという論もある。『みだれ髪』は果たしてどの立場から詠まれた集なのであろうか。『みだれ髪』の歌には「神」や「罪」などの宗教的な語が使われることがある。それは先行研究で言われているような恋愛に対する縛りからの解放や罪の意識から詠まれたのではないだろうか。晶子の宗教観や晶子が影響を受けた作家の思想を確認しながら、自らを罪の子と呼び、恋は罪であるとする明治期の恋愛観に影響された表現の意図を解明していく。</p>			

キーワード

神 罪 恋愛 貞操 実世界 想世界